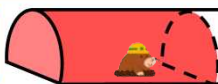


お盆も終わり、夏も終盤にさしかかっておりますね。
まだまだ猛暑日が続いておりますが、
残り少ない夏のイベントを楽しみながら乗り切りたいと思います♪
それでは今日も、絶好の「とんねる日和」__。



8月26日時点 154 m

小繋トンネル 全長1,153m







ートンネルができるまでー

小繋トンネルは、「NATM (ナトム) 工法」と呼ばれる工法を用いて作られています。

NATM工法とは、掘った部分をコンクリートで固め、岩盤とコンクリートを固定するロックボルトを打ち込み、地山自体の保持力を利用してトンネルを保持する工法です。NATM (ナトム) 工法は、1950年頃オーストリアで考え出された工法であり、[New Austrian Tunneling Method](#) (新オーストリア工法) の頭文字を用いて、「NATM」工法と呼ばれています。



↑①から⑥の工程を施した状態

<p>1 ダイナマイトセット</p>  <p>ドリルジャンボで火薬を入れる穴を空け、火薬をセットします。</p>	<p>2 発破</p>  <p>POINT 火薬を使って爆発させます。騒音などを小さくするために鉄の扉(防音扉)を設置します。</p>	<p>3 土を運ぶ</p>  <p>掘っていく時に出る土や岩をサイドダンプでダンプトラックに積んで外へ出します。</p>
<p>4 コンクリート吹付</p>  <p>せっかく掘った穴がくずれないように、コンクリートを吹付けてトンネルの形に固めます。</p>	<p>5 鋼製支保工建込</p>  <p>山の弱いところではさらに、トンネルの形をした鉄でできた枠(鋼製支保工)で補強します。</p>	<p>6 ロックボルト</p>  <p>POINT ドリルジャンボで4mか6mの鉄の棒(ロックボルト)を山に打込み、山を強くします。</p>

小繋トンネル工事は、現在この①から⑥の工程を繰り返し掘り進めています。この後、コンクリートで壁面をつくっていきますが、実際に工事が工程に入った際にまたご説明します。

- 掘りすす -
L O O K メーター
382 人

現在までのトンネル工事等への延べ見学者数です。

ー編集後記ー

今号では、トンネルの基本的な施工手順についてお伝えいたしました。完成までに様々な工程を経て、トンネルが作られているのですね。次回は、機械・設備にも触れながら進捗状況をお伝えしていきたいと思っております！それでは明日もトンネル日和♪